

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

■ 暴落多発の「10月相場」は怖くない



先週のFOMC開催からメジャーSQ、国内3連休のイベントを消化、前回コラムでは「買い難い印象」とした9月相場も終盤となった。今後は日銀金融政策決定会合確認から中間期末の配当権利取り物色やドレッシング買いが下支える期待も高まっている。

さて、翌月となる「10月相場」と言えば、1987年のブラックマンデー、2008年の世界金融危機など「株価暴落」が発生するイメージが強いのではないだろうか。そこで1949年以降の日経平均株価データを集計してみた。

10月の月末終値が前月となる9月末比で上回った回数は63回中の33回。勝率となると52・4%となり、実のところは「暴落発生」のイメージに反して健闘している。これは調整色を深めやすい9月からの見直し買いが入りやすいため、投資戦略上では短期調整を探りつつも強気スタンスで臨むべきだろう。先週のFOMC声明で伝わった量的緩和政策の効果も持続すると見る。

そこで弊社では、量的緩和政策で期待される「バブル相場」到来を対象とした「厳選銘柄付き緊急市況レポート」を発売することにした。実は前回の緩和政策が伝わった2年前にも10月前半に投入し、好結果を残した実績テーマでもある。厳選銘柄やレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。